

財務指標分析



令和6年度 三重県桑名市

目次

三期推移表	一般会計等、全体会計、連結会計	3
指標		
①	資産形成度 将来世代に残る資産について	6
②	世代間公平性 現世代の負担と将来世代での負担について	9
③	持続可能性 財務の健全性（財政運営に関する視点）	11
④	効率性 行政サービスの効率的な提供について	13
⑤	弾力性 財政構造の柔軟性	17
⑥	自律性 財政構造の自律性	18

平成27年1月23日、「統一的な基準による地方公会計の整備促進について」が、総務大臣より通知され、全ての地方公共団体において「統一的な基準」に基づいて財務書類等を作成することとなりました。

また、人口減少や資産老朽化、高齢化問題、等が進む厳しい環境の中で、財務書類等の積極的な活用が求められ、併せて公表されたマニュアルには、活用事例や財務分析についても示されています。

そこで、財務書類等から分析可能な「財務指標分析」をご報告させていただきます。これは、活用事例のセグメント分析等の前段になるものです。

財務指標分析は、会計的な観点から分析を行います。指標に置き換えることで、金額情報である財務書類等をわかり易くすることが出来ます。また、規模の異なる団体との比較することも可能です。このような取り組みを行うことで、「統一的な基準による財務書類等の作成」の目的の一つである比較可能性の確保が活きてきます。

なお、各自治体の平均値やその分析数値の良し悪しは、まだ明確にはわかりませんので、一般社団法人地方公会計研究センターが、公会計財務データを基に集計した「参考値」を示させていただきます。

マクロ的な視点からの活用に向けての参考資料になれば幸いです。

- ◆ 参考数値 …… 対象=1,693団体
地方自治体の令和5年度の公会計財務データを
(一社)地方公会計研究センター が、集計・作成したものです

貸借対照表の見方（一般会計等）

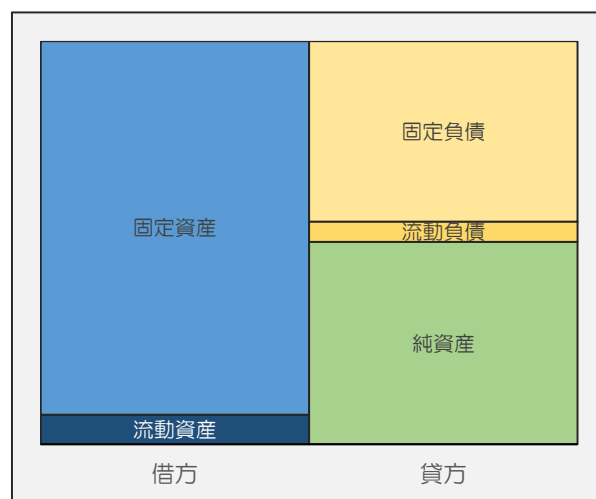
令和6年度

（単位：千円）

借 方			貸 方		
資 産	固 定 資 産	135,055,737	負 債	固 定 負 債	65,236,953
	流 動 資 産	10,660,780		流 動 負 債	7,274,485
	繰 延 資 産	0	純 資 産	73,205,080	
資 産 合 計		145,716,517	負 債 ・ 純 資 産 合 計		145,716,517

貸借対照表は、ある一定時点（3月31日）において自治体に存在する資産・負債・純資産を一覧表示する報告書であるとともに、調達している資本の源泉（借金や自己資金）とその運用形態を明らかにする報告書という意味合いもあります。

資産に対する純資産の割合が大きければ大きいほど健全な財政状態であるといえます。

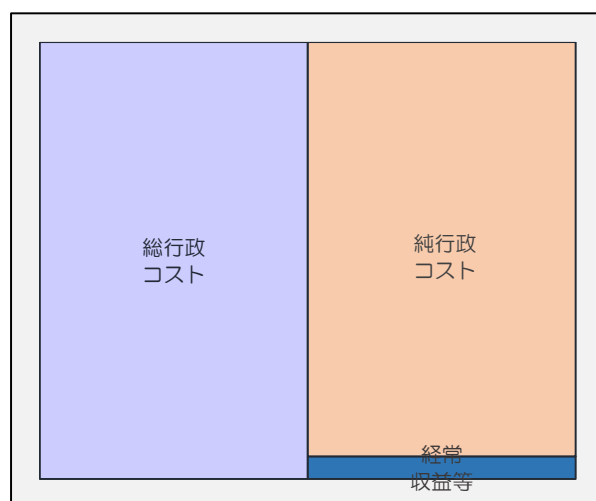


行政コスト計算書の見方（一般会計等）

令和6年度

（単位：千円）

科 目 区 分	金 額	
費 用	人 件 費	10,640,681
	物 件 費 等	15,245,225
	そ の 他 業 務 費 用	879,812
	移 転 費 用	26,311,815
収 益	使 用 料 手 数 料	781,482
	そ の 他 収 益	1,738,377
純経常行政コスト		50,557,675
臨 時 損 失		219,876
臨 時 収 益		254,822
純 行 政 コ ス ト		50,522,729



行政コスト計算書では、事業年度の行政活動のうち行政コストを種類別に区分して、どこにどれだけの費用がかかっているのか、またそれに対する収入はどれくらいあるのかを計算します。

地方公会計制度では、利益概念がなく純行政コストを計算するためのものであることから、費用を上、収益を下に記載する形式になっています。

三期推移表 (一般会計等)

◆ 貸借対照表

(単位:千円)

		令和4年度	令和5年度		令和6年度		平均値
		金額	金額	増減率	金額	増減率	
資産	固定資産	127,895,802	127,764,598	△0.1%	135,055,737	5.7%	130,238,712
	流動資産	12,257,173	10,987,867	△10.4%	10,660,780	△3.0%	11,301,940
	繰延資産	-	-	-	-	-	-
	合計	140,152,975	138,752,465	△1.0%	145,716,517	5.0%	141,540,652
負債	固定負債	67,450,882	64,687,728	△4.1%	65,236,953	0.8%	65,791,854
	流動負債	7,283,791	7,699,661	5.7%	7,274,485	△5.5%	7,419,312
	合計	74,734,673	72,387,388	△3.1%	72,511,438	0.2%	73,211,166
純資産合計		65,418,302	66,365,077	1.4%	73,205,080	10.3%	68,329,486
負債・純資産合計		140,152,975	138,752,465	△1.0%	145,716,517	5.0%	141,540,652

◆ 行政コスト計算書

(単位:千円)

		令和4年度	令和5年度		令和6年度		平均値
		金額	金額	増減率	金額	増減率	
経常費用	業務費用	26,054,819	25,963,931	△0.3%	26,765,718	3.1%	26,261,489
	移転費用	23,482,130	24,368,710	3.8%	26,311,815	8.0%	24,720,885
	合計	49,536,949	50,332,641	1.6%	53,077,533	5.5%	50,982,374
経常収益		1,574,890	1,701,543	8.0%	2,519,858	48.1%	1,932,097
純経常行政コスト		47,962,059	48,631,098	1.4%	50,557,675	4.0%	49,050,277
臨時損失		28,172	255,944	808.5%	219,876	△14.1%	167,997
臨時収益		416,604	102,478	△75.4%	254,822	148.7%	257,968
純行政コスト		47,573,627	48,784,565	2.5%	50,522,729	3.6%	48,960,307

◆ 純資産変動計算書

(単位:千円)

		令和4年度	令和5年度		令和6年度		平均値
		金額	金額	増減率	金額	増減率	
前年度末純資産残高		62,285,223	65,418,302	5.0%	66,365,077	1.4%	64,689,534
本年度	純行政コスト	△47,573,627	△48,784,565	△2.5%	△50,522,729	△3.6%	△48,960,307
	財源	50,498,429	49,602,755	△1.8%	51,739,544	4.3%	50,613,576
	差額	2,924,802	818,190	△72.0%	1,216,816	48.7%	1,653,269
本年度純資産変動額		3,133,080	946,774	△69.8%	6,840,003	622.5%	3,639,952
本年度末純資産残高		65,418,302	66,365,077	1.4%	73,205,080	10.3%	68,329,486

◆ 資金収支計算書

(単位:千円)

団体区分別平均値より		令和4年度	令和5年度		令和6年度		平均値
		金額	金額	増減率	金額	増減率	
本年度	業務活動収支	5,925,710	4,135,431	△30.2%	3,878,791	△6.2%	4,646,644
	投資活動収支	△3,185,095	△2,041,940	35.9%	△3,648,933	△78.7%	△2,958,656
	財務活動収支	△2,475,777	△2,943,016	△18.9%	138,721	104.7%	△1,760,024
	資金収支額	264,838	△849,525	△420.8%	368,578	143.4%	△72,036
前年度末資金残高		3,573,473	3,838,311	7.4%	2,988,786	△22.1%	3,466,857
比例連結割合変更差額		-	-	-	-	-	-
本年度末資金残高		3,838,311	2,988,786	△22.1%	3,357,365	12.3%	3,394,821
歳計外	前年度末残高	174,092	172,521	△0.9%	204,159	18.3%	183,591
	本年度増減	△1,570	31,638	2115.2%	△3,303	△110.4%	8,922
	年度末現金残高	172,521	204,159	18.3%	200,857	△1.6%	192,512
本年度末現金預金残高		4,010,832	3,192,946	△20.4%	3,558,221	11.4%	3,587,333

三期推移表 (全体会計)

◆ 貸借対照表

(単位:千円)

		令和4年度		令和5年度		令和6年度		平均値
		金額	金額	増減率	金額	増減率		
資産	固定資産	229,673,449	229,015,771	△0.3%	230,556,055	0.7%	229,748,425	
	流動資産	19,668,372	19,198,395	△2.4%	19,472,760	1.4%	19,446,509	
	繰延資産	-	-	-	-	-	-	
	合計	249,341,821	248,214,166	△0.5%	250,028,815	0.7%	249,194,934	
負債	固定負債	150,726,775	147,162,922	△2.4%	148,041,353	0.6%	148,643,683	
	流動負債	12,148,413	12,802,693	5.4%	12,516,740	△2.2%	12,489,282	
	合計	162,875,187	159,965,615	△1.8%	160,558,093	0.4%	161,132,965	
純資産合計		86,466,634	88,248,552	2.1%	89,470,722	1.4%	88,061,969	
負債・純資産合計		249,341,821	248,214,166	△0.5%	250,028,815	0.7%	249,194,934	

◆ 行政コスト計算書

(単位:千円)

		令和4年度		令和5年度		令和6年度		平均値
		金額	金額	増減率	金額	増減率		
経常費用	業務費用	33,724,849	33,719,194	△0.0%	34,649,439	2.8%	34,031,161	
	移転費用	44,670,629	45,790,613	2.5%	48,394,735	5.7%	46,285,326	
	合計	78,395,477	79,509,806	1.4%	83,044,174	4.4%	80,316,486	
経常収益		6,305,577	6,599,494	4.7%	7,501,261	13.7%	6,802,111	
純経常行政コスト		72,089,900	72,910,312	1.1%	75,542,913	3.6%	73,514,375	
臨時損失		30,882	402,391	1203.0%	414,045	2.9%	282,439	
臨時収益		419,630	103,119	△75.4%	596,828	478.8%	373,192	
純行政コスト		71,701,152	73,209,584	2.1%	75,360,130	2.9%	73,423,622	

◆ 純資産変動計算書

(単位:千円)

		令和4年度		令和5年度		令和6年度		平均値
		金額	金額	増減率	金額	増減率		
前年度末純資産残高		82,040,739	86,466,634	5.4%	88,248,552	2.1%	85,585,308	
本年度	純行政コスト	△71,701,152	△73,209,584	△2.1%	△75,360,130	△2.9%	△73,423,622	
	財源	75,912,109	74,862,809	△1.4%	77,353,461	3.3%	76,042,793	
	差額	4,210,957	1,653,225	△60.7%	1,993,331	20.6%	2,619,171	
本年度純資産変動額		4,425,895	1,781,918	△59.7%	1,222,171	△31.4%	2,476,661	
本年度末純資産残高		86,466,634	88,248,552	2.1%	89,470,722	1.4%	88,061,969	

◆ 資金収支計算書

(単位:千円)

団地区別平均値より		令和4年度		令和5年度		令和6年度		平均値
		金額	金額	増減率	金額	増減率		
本年度	業務活動収支	9,956,295	6,774,767	△32.0%	6,714,632	△0.9%	7,815,231	
	投資活動収支	△5,974,530	△3,879,167	35.1%	△5,592,337	△44.2%	△5,148,678	
	財務活動収支	△3,432,296	△3,114,859	9.2%	△347,506	88.8%	△2,298,220	
	資金収支額	549,469	△219,259	△139.9%	774,789	453.4%	368,333	
前年度末資金残高		9,692,244	10,241,714	5.7%	10,022,454	△2.1%	9,985,471	
比例連結割合変更差額		-	-	-	-	-	-	
本年度末資金残高		10,241,714	10,022,454	△2.1%	10,797,243	7.7%	10,353,804	
歳計外	前年度末残高	174,092	172,521	△0.9%	204,159	18.3%	183,591	
	本年度増減	△1,570	31,638	2115.2%	△3,303	△110.4%	8,922	
	年度末現金残高	172,521	204,159	18.3%	200,857	△1.6%	192,512	
本年度末現金預金残高		10,414,235	10,226,614	△1.8%	10,998,100	7.5%	10,546,316	

三期推移表 (連結会計)

◆ 貸借対照表

(単位:千円)

		令和4年度		令和5年度		令和6年度		平均値
		金額	金額	増減率	金額	増減率		
資産	固定資産	245,267,494	244,148,671	△0.5%	245,287,429	0.5%	244,901,198	
	流動資産	25,516,386	24,679,418	△3.3%	24,370,034	△1.3%	24,855,279	
	繰延資産	-	-	-	-	-	-	
	合計	270,783,879	268,828,089	△0.7%	269,657,463	0.3%	269,756,477	
負債	固定負債	158,726,449	154,583,863	△2.6%	155,081,146	0.3%	156,130,486	
	流動負債	15,422,831	15,736,157	2.0%	14,973,249	△4.8%	15,377,412	
	合計	174,149,280	170,320,019	△2.2%	170,054,396	△0.2%	171,507,898	
純資産合計		96,634,599	98,508,070	1.9%	99,603,067	1.1%	98,248,579	
負債・純資産合計		270,783,879	268,828,089	△0.7%	269,657,463	0.3%	269,756,477	

◆ 行政コスト計算書

(単位:千円)

		令和4年度		令和5年度		令和6年度		平均値
		金額	金額	増減率	金額	増減率		
経常費用	業務費用	49,313,812	49,517,676	0.4%	51,219,507	3.4%	50,016,998	
	移転費用	56,805,223	58,863,670	3.6%	61,569,339	4.6%	59,079,411	
	合計	106,119,035	108,381,346	2.1%	112,788,846	4.1%	109,096,409	
経常収益		18,977,230	20,080,595	5.8%	21,360,509	6.4%	20,139,445	
純経常行政コスト		87,141,805	88,300,750	1.3%	91,428,337	3.5%	88,956,964	
臨時損失		33,039	186,172	463.5%	286,761	54.0%	168,657	
臨時収益		43,681	103,329	136.6%	596,828	477.6%	247,946	
純行政コスト		87,131,163	88,383,593	1.4%	91,118,270	3.1%	88,877,675	

◆ 純資産変動計算書

(単位:千円)

		令和4年度		令和5年度		令和6年度		平均値
		金額	金額	増減率	金額	増減率		
前年度末純資産残高		92,592,325	96,634,599	4.4%	98,508,070	1.9%	95,911,665	
本年度	純行政コスト	△87,131,163	△88,383,593	△1.4%	△91,118,270	△3.1%	△88,877,675	
	財源	90,947,121	90,020,254	△1.0%	92,990,547	3.3%	91,319,307	
	差額	3,815,957	1,636,661	△57.1%	1,872,276	14.4%	2,441,631	
本年度純資産変動額		4,042,274	1,873,471	△53.7%	1,094,998	△41.6%	2,336,914	
本年度末純資産残高		96,634,599	98,508,070	1.9%	99,603,067	1.1%	98,248,579	

◆ 資金収支計算書

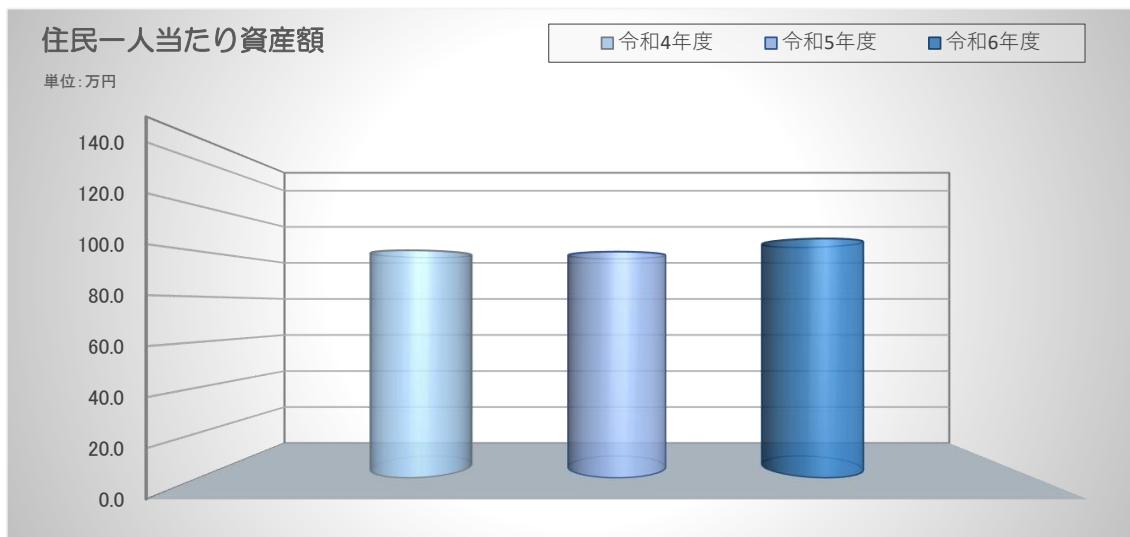
(単位:千円)

[団体区分別平均値より]		令和4年度		令和5年度		令和6年度		平均値
		金額	金額	増減率	金額	増減率		
本年度	業務活動収支	11,588,775	9,078,043	△21.7%	8,050,026	△11.3%	9,572,281	
	投資活動収支	△6,947,721	△4,927,054	29.1%	△6,307,066	△28.0%	△6,060,614	
	財務活動収支	△4,163,983	△4,219,770	△1.3%	△1,442,005	65.8%	△3,275,253	
	資金収支額	477,071	△68,781	△114.4%	300,955	537.6%	236,415	
前年度末資金残高		11,713,988	12,206,965	4.2%	12,146,882	△0.5%	12,022,612	
比例連結割合変更差額		15,906	8,699	△45.3%	2,109	△75.8%	8,905	
本年度末資金残高		12,206,965	12,146,882	△0.5%	12,449,947	2.5%	12,267,931	
歳計外	前年度末残高	211,782	209,946	△0.9%	242,682	15.6%	221,470	
	本年度増減	△1,836	32,737	1883.1%	△1,778	△105.4%	9,708	
	年度末現金残高	209,946	242,682	15.6%	240,905	△0.7%	231,178	
本年度末現金預金残高		12,416,910	12,389,565	△0.2%	12,690,851	2.4%	12,499,109	

資産形成度

住民一人当たり資産額

資産額を人口で除すことにより、住民一人当たりの資産額を求めます。
 住民一人当たりにすることで金額が実感しやすい情報になります。
 また、規模の大小に関係なく多くの団体と比較することができます。



(単位: 万円)

	令和4年度	傾向	令和5年度	傾向	令和6年度
住民一人当たり資産額	100.4	↓	99.8	↑	105.6

※一般会計等

全国平均値	373
類似団体区分別平均値 (Ⅲ-2)	169

$$\text{住民一人当たり資産額} = \frac{\text{資産合計 (BS)}}{\text{人口}}$$

《指標分析コメント》

住民一人当たり資産額の推移をみていくと、増加しております。

総務省マニュアル改定を受け、公営企業への出資金を48.2億円計上したことにより、

住民一人当たりの資産額が5.8万円増加しました。(内、公営企業の出資金影響分の増加額3.5万円)

しかし、全国平均値及び類似団体区分別平均値よりも低くなっています。

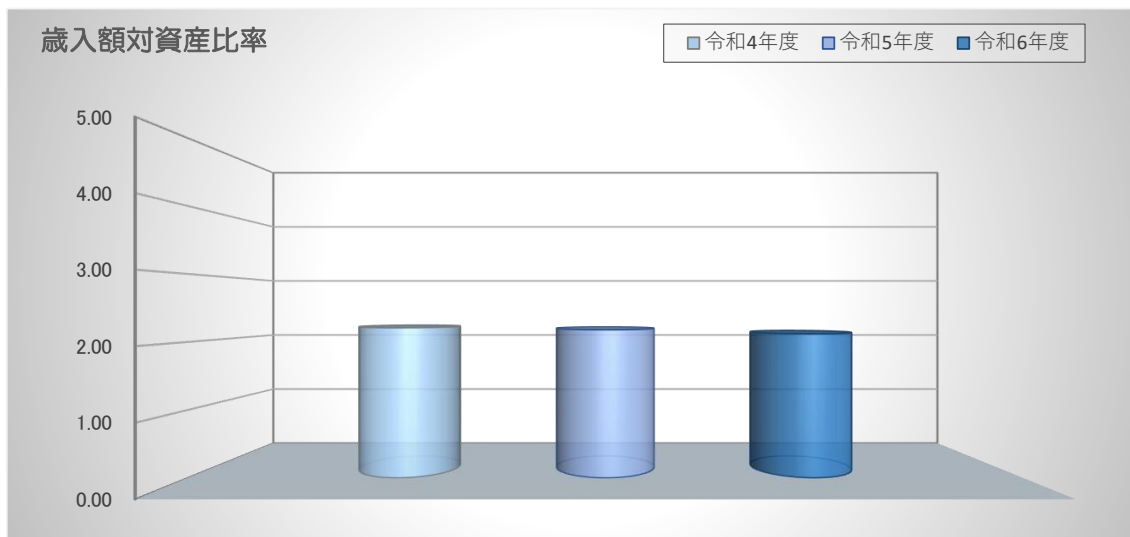
他団体に比べ、桑名市のインフラ資産の計上額が少ないことが要因です。

(※参考値: 令和5年度 人口区分【10~20万人】 平均値 1,198億円 / 令和6年度 桑名市 366億円)

資産形成度

歳入額対資産比率

歳入総額に対して資産がどのくらいあるのかを見ることができます。
現在保有する資産が歳入の何年分にあたるのかを把握することができます。
自治体の資産形成の度合いを測ります。



(単位:年)

	令和4年度	傾向	令和5年度	傾向	令和6年度
歳入額対資産比率	2.21	↓	2.18	↓	2.12

※一般会計等

全国平均値	3.63
類似団体区分別平均値(Ⅲ-2)	3.44

$$\text{歳入額対資産比率} = \frac{\text{資産合計 (BS)}}{\text{歳入総額 (CF)}}$$

《指標分析コメント》

歳入額対資産比率は、ほぼ横ばいとなっています。

全国平均値及び類似団体区分別平均値の数値を下回っています。

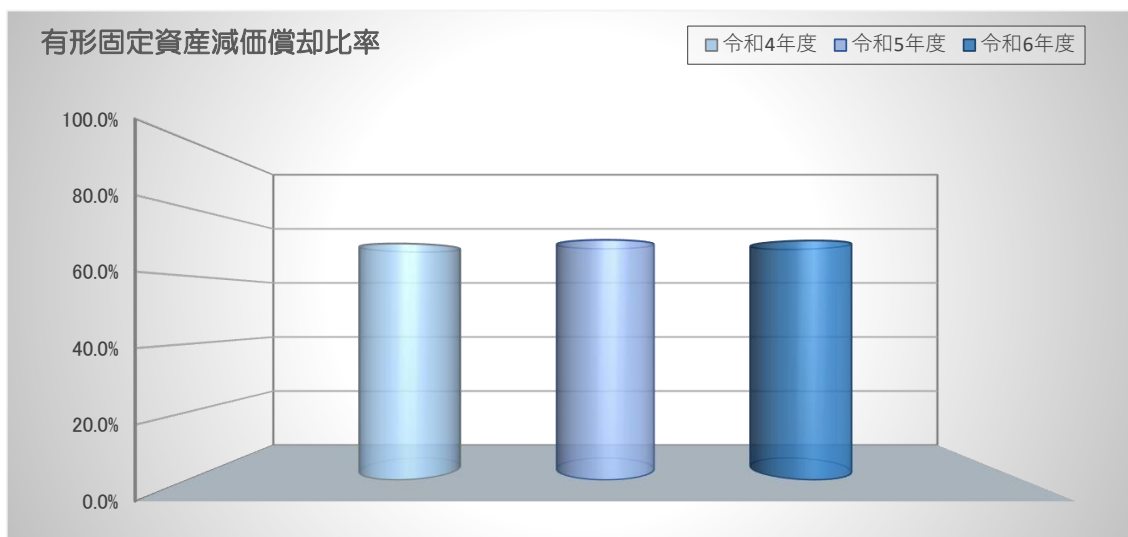
歳入総額に対する資産の比率が高い場合は、施設更新などの財政的な負担が問題になります。

令和6年度においては、歳入総額が増加しており、公営企業への出資金の計上や事業用固定資産の増加によって、資産総額も増加しておりますが、歳入総額の増減率の方が高い為、比率は短くなっています。

有形固定資産減価償却比率（資産老朽化比率）

有形固定資産のうち、取得価額等に対する減価償却累計額の割合を算出することで耐用年数に対してどの程度経過しているかを把握することができます。

この指数が増えた場合、老朽化が進んでいると言えます。（会計上の耐用年数に対し）



	令和4年度	傾向	令和5年度	傾向	令和6年度
有形固定資産減価償却比率	69.5%	↑	70.6%	↓	70.4%

※一般会計等

全国平均値	64.9%
類似団体区分別平均値（Ⅲ-2）	64.8%

$$\text{有形固定資産減価償却比率（資産老朽化比率）} = \frac{\text{減価償却累計額}}{\text{有形固定資産合計} - \text{非償却資産} + \text{減価償却累計額}} \times 100$$

《指標分析コメント》

有形固定資産減価償却率は、資産の老朽化を推定する一つの方法になります。

全国平均値及び類似団体区分別平均値の数値を大きく上回っています。

この指標は、法定耐用年数を基に会計的に計算された値になります。

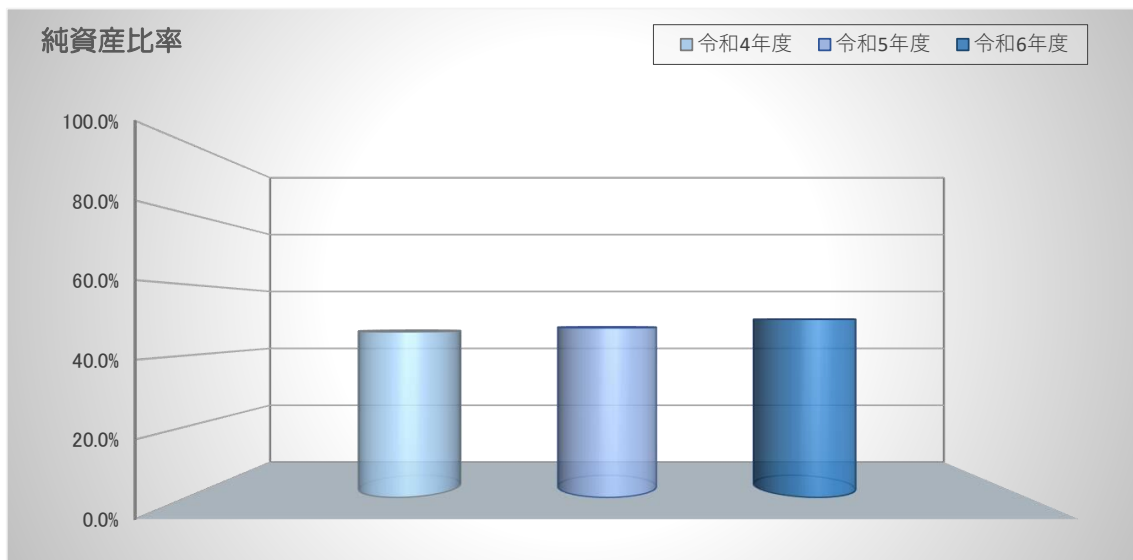
桑名市では、減価償却費33億円に対して公共施設整備支出が57億円であることから令和6年度においては、資産老朽化比率が改善されています。

実際の老朽化に対する計画については、公共施設管理計画や個別施設計画などを作成し対応する必要があります。

世代間公平性

純資産比率

純資産の減少は、現世代が将来世代にとっても利用可能であった資源を費消したことを示します。また、現世代がその便益を受けることで、将来世代に負担が先送りされたことも示しています。



	令和4年度	傾向	令和5年度	傾向	令和6年度
純資産比率	46.7%	↑	47.8%	↑	50.2%
					※一般会計等
全国平均値					72.5%
類似団体区分別平均値(Ⅲ-2)					72.2%

$$\text{純資産比率} = \frac{\text{純資産額 (BS)}}{\text{資産額 (BS)}} \times 100$$

《指標分析コメント》

純資産比率は、年々増加傾向にあります。

全国平均値及び類似団体区分別平均値よりも低くなっています。

純資産比率が2.4%増加しました。(内、公営企業の出資金影響分の増加額1.7%)

また、資産額の中には、インフラ資産が含まれています。

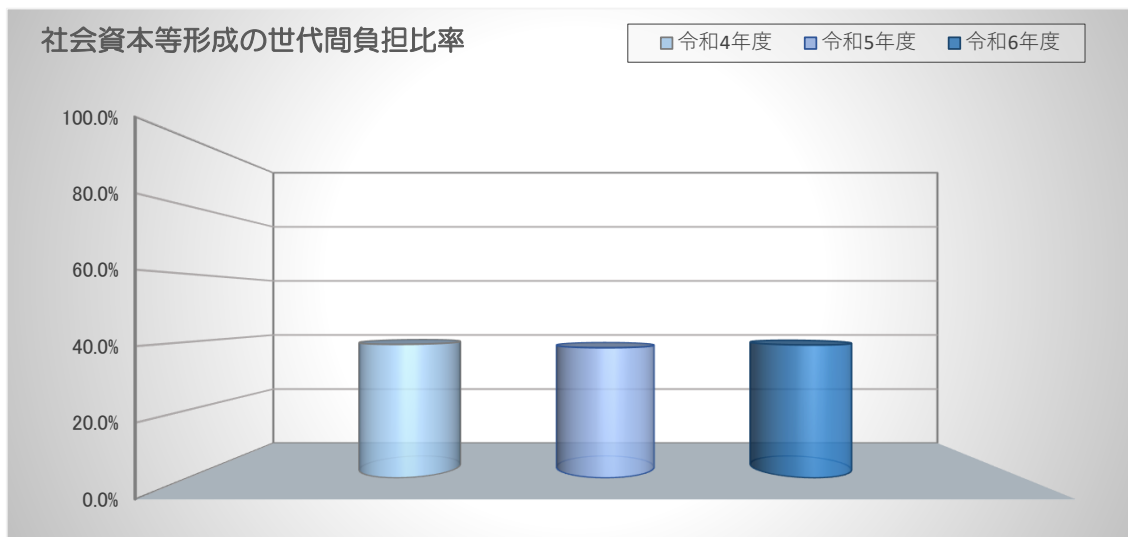
インフラ資産を除いた実質純資産比率も把握しておく必要があります。

(※参考値:実質純資産比率 令和4年度 27.5%/令和5年度 29.2%/令和6年度 33.5%)

世代間公平性

社会資本等形成の世代間負担比率（将来世代負担比率）

公共資産等を形成するのに、どのくらい償還が必要な地方債を使ったかを示します。社会資本等について、将来の償還等が必要な地方債による形成割合を算出することにより、社会資本等形成に係る将来世代の負担の比重を把握することができます。



	令和4年度	傾向	令和5年度	傾向	令和6年度
社会資本等形成の世代間負担比率	39.3%	↓	38.3%	↗	39.1%

※一般会計等

全国平均値	29.7%
類似団体区分別平均値（Ⅲ-2）	28.0%

*（一社）地方公会計研究センターが集計した上記数値には、特例地方債の残高を含んだ数値となっています。

$$\text{社会資本等形成の世代間負担比率} = \frac{\text{地方債残高 (BS) ※}}{\text{有形・無形固定資産 (BS)}} \times 100$$

※ 地方債残高—臨時財政対策債等の特例地方債の残高

《指標分析コメント》

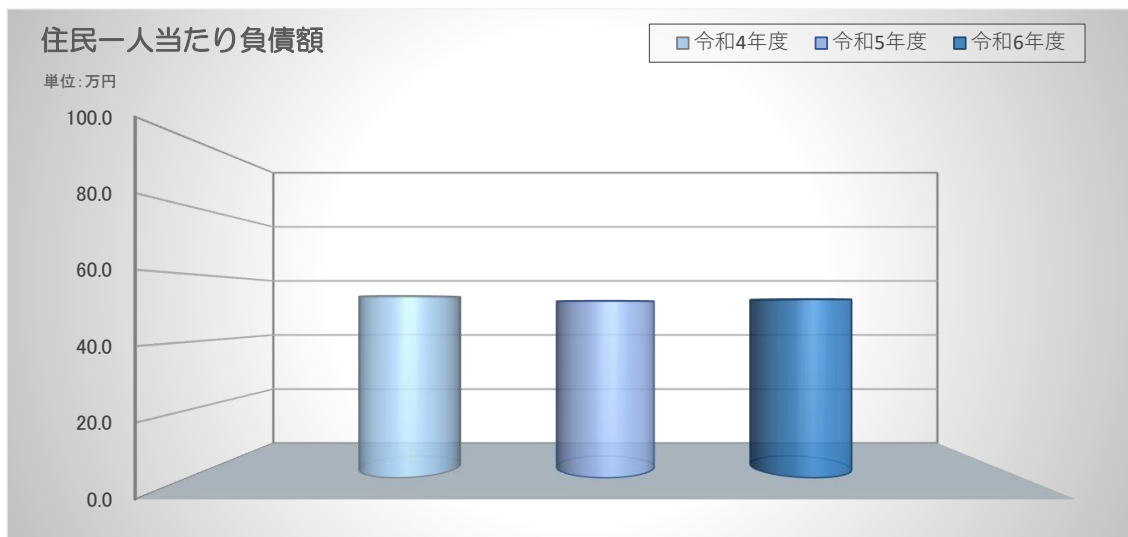
全国平均値及び類似団体区分別平均値よりも高くなっています。

特例地方債を含む全国平均値及び類似団体区分別平均値の数値を大きく上回っています。

このことから、将来の償還等が必要な負債による調達割合が高く、将来世代が負担する割合が高くなっています。

住民一人当たり負債額

住民一人当たりどのくらい負債額があるかを示します。
一人当たりの額にすることで、負債の状況を示す際わかりやすくなるとともに他の地方公共団体との数値比較が容易になります。



(単位: 万円)

	令和4年度	傾向	令和5年度	傾向	令和6年度
住民一人当たり負債額	53.5	↓	52.1	↑	52.6

※一般会計等

全国平均値	86
類似団体区分別平均値 (Ⅲ-2)	44

$$\text{住民一人当たり負債額} = \frac{\text{負債額 (BS)}}{\text{人口}}$$

《指標分析コメント》

住民一人当たり負債額は、公営企業等の企業債が多額になることから、全体会計で分析するほうが良い指標であり、全体会計では、以下の金額になります。

令和4年度 117万円 / 令和5年度 115万円 / 令和6年度 116万円

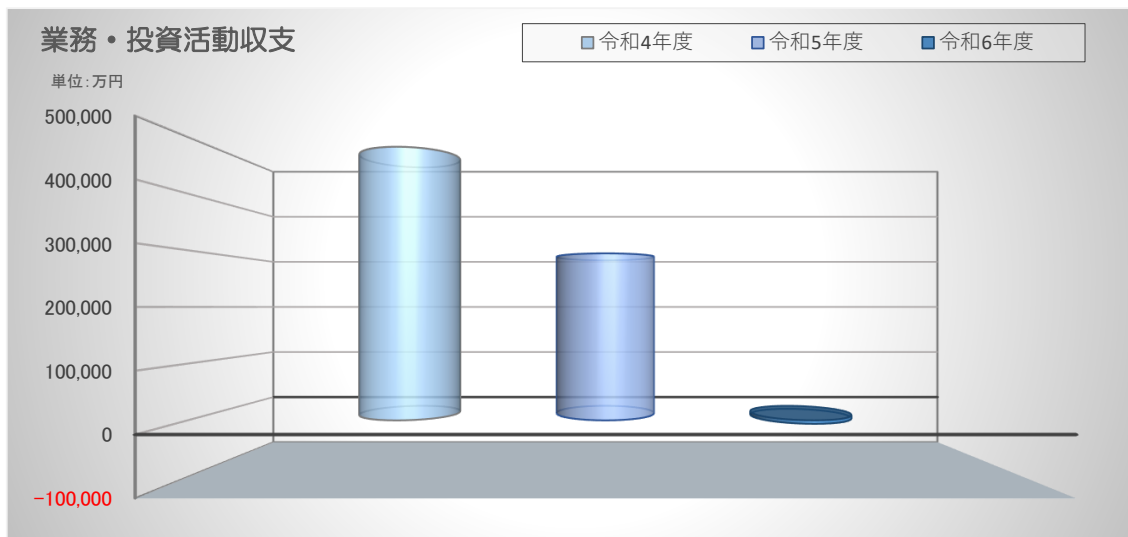
全国平均値 135万円 / 類似団体区分別平均 93万円

住民一人当たり負債額は、資産の更新を行うことにより今後、負債が増える恐れがあることから負債額の縮減に努めていく必要があります。

業務・投資活動収支

資金収支計算書(CF)の「業務活動収支(ただし支払利息支出を除く)」と「投資活動収支」を合算することにより、地方債等の元利償還額を除いた歳出と地方債等発行収入除いた歳入のバランスを示す指標となります。

当該収支が均衡している場合には、経済成長率が長期金利を下回らない限り、経済規模対する地方債等の比率は増加しないため、持続可能な財政運営であるといえます。



(単位: 万円)

	令和4年度	傾向	令和5年度	傾向	令和6年度
業務・投資活動収支	482,325	↓	294,443	↓	-6,107
					※一般会計等
全国平均値					107,500
類似団体区分別平均値(Ⅲ-2)					232,800

業務・投資活動収支 = 業務活動収支 (CF) + 投資活動収支 (CF)

※ 支払利息支出及び基金積立支出・基金取崩収入を除く

《指標分析コメント》

公共施設等整備費支出が28億円増加した結果、令和6年度はマイナスとなっております。

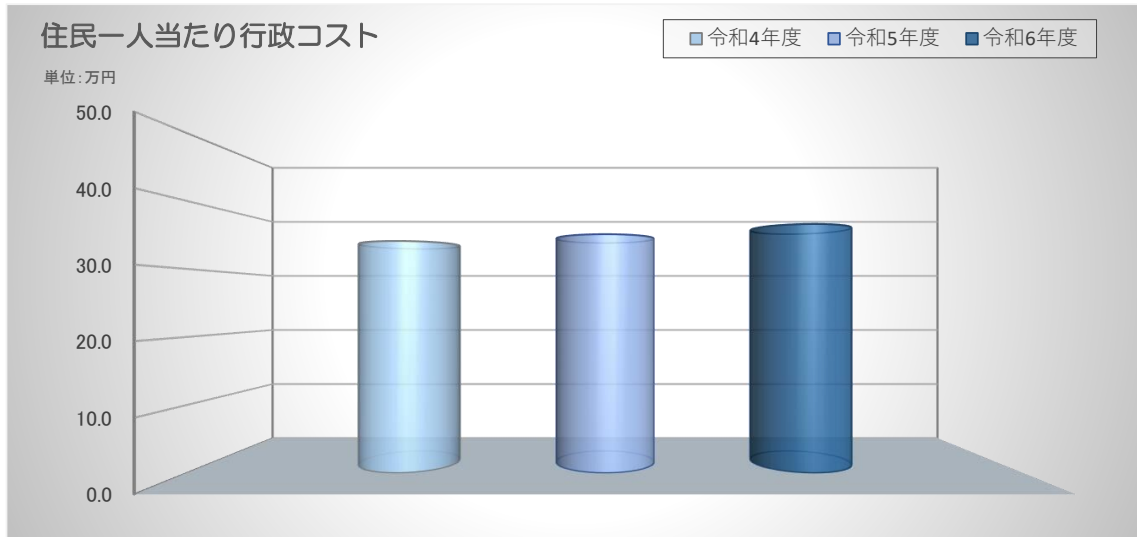
主な要因として、多度地区小中一貫校整備事業の支出を18.8億円計上したことによりです。

基本的には、地方公共団体においては、業務・投資活動収支は黒字で推移します。

しかし、業務・投資活動収支は、公共施設整備支出(新規施設の建設、施設の更新)が多い年度については、マイナスになるので指標をみる上で注意が必要です。

住民一人当たり行政コスト

行政コスト計算書(PL)に計上される行政コストを人口で割ることで、住民一人当たりの行政コストを求めることができます。
 経年比較や類似団体との比較を行うことによって、地方公共団体の行政活動の効率性の測定に役立てることができます。



	令和4年度	傾向	令和5年度	傾向	令和6年度
住民一人当たり行政コスト	34.1	↓	35.1	↓	36.6
					※一般会計等
全国平均値					73
類似団体区分別平均値(Ⅲ-2)					39

$$\text{住民一人当たり行政コスト} = \frac{\text{行政コスト (PL)}}{\text{人口}}$$

《指標分析コメント》

住民一人当たり行政コストは、増加傾向にあります。

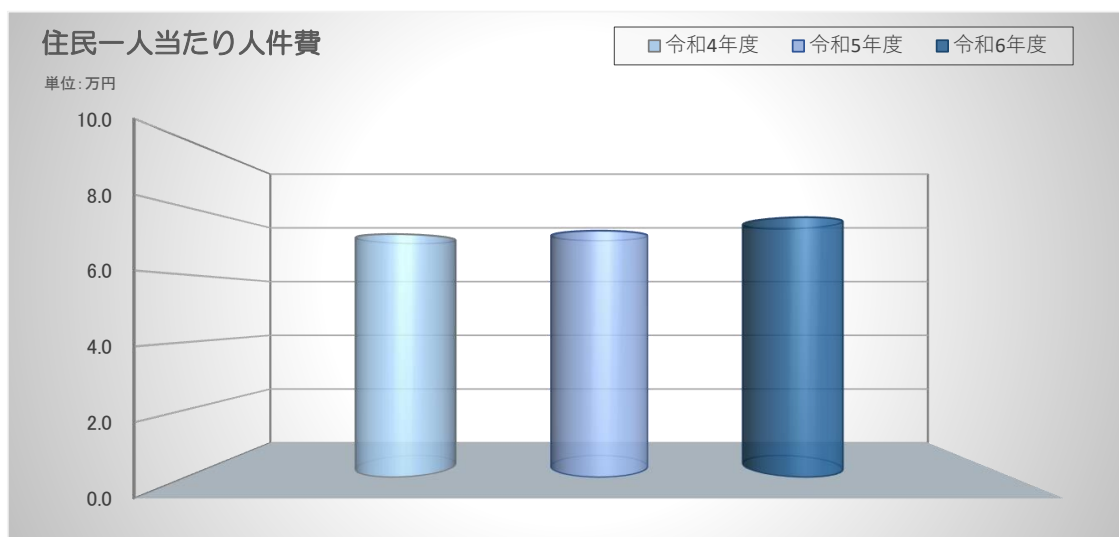
全国平均値及び類似団体区分別平均値よりも低くなっています。

ひとことに行政コストといってもいくつかの区分に分けることが出来るので、

次ページ以降で、個別に分析していきます。

住民一人当たり人件費

行政コスト計算書(PL)に計上される人件費を人口で割ることで、住民一人当たりの人件費を求めることができます。
 経年比較や類似団体との比較を行うことによって、地方公共団体の行政活動の効率性の測定に役立てることができます。



(単位: 万円)

	令和4年度	傾向	令和5年度	傾向	令和6年度
住民一人当たり人件費	7.2	↓	7.3	↓	7.7

※一般会計等

全国平均値	14
類似団体区分別平均値 (Ⅲ-2)	7

$$\text{住民一人当たり人件費} = \frac{\text{人件費 (PL)}}{\text{人口}}$$

《指標分析コメント》

住民一人当たり人件費は、ほぼ横ばいとなっています。

全国平均値よりも低くなっており、類似団体区分別平均値よりやや高くなっています。

住民一人あたり人件費は、人口5万人未満の自治体は、規模の不利益が大きく響いており

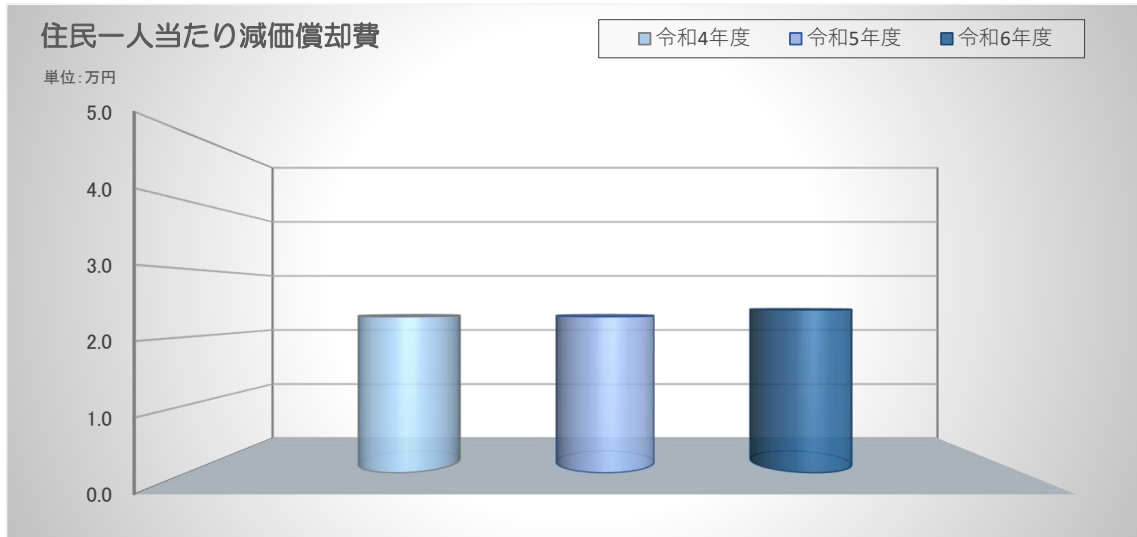
人口5万人を超えると規模の大きさはあまり影響を与えない傾向になります。

現金支出を伴わない費用として、賞与等引当金繰入額が0.5億円増加、退職手当引当金

繰入額は0.8億円増加しています。

住民一人当たり減価償却費

行政コスト計算書(PL)に計上される減価償却費を人口で割ることで、住民一人当たりの減価償却費を求めることができます。
 経年比較や類似団体との比較を行うことによって、地方公共団体の行政活動の効率性の測定に役立てることができます。



(単位:万円)

	令和4年度	傾向	令和5年度	傾向	令和6年度
住民一人当たり減価償却費	2.3	→	2.3	↓	2.4

※一般会計等

全国平均値	13
類似団体区分別平均値(Ⅲ-2)	5

$$\text{住民一人当たり減価償却費} = \frac{\text{当期減価償却費 (PL)}}{\text{人口}}$$

《指標分析コメント》

住民一人当たり減価償却費は、ほぼ横ばいで推移しています。

全国平均値及び類似団体区分別平均値よりも低くなっています。

減価償却費も、規模による利益・不利益が大きく関連します。また、インフラ資産の比重が

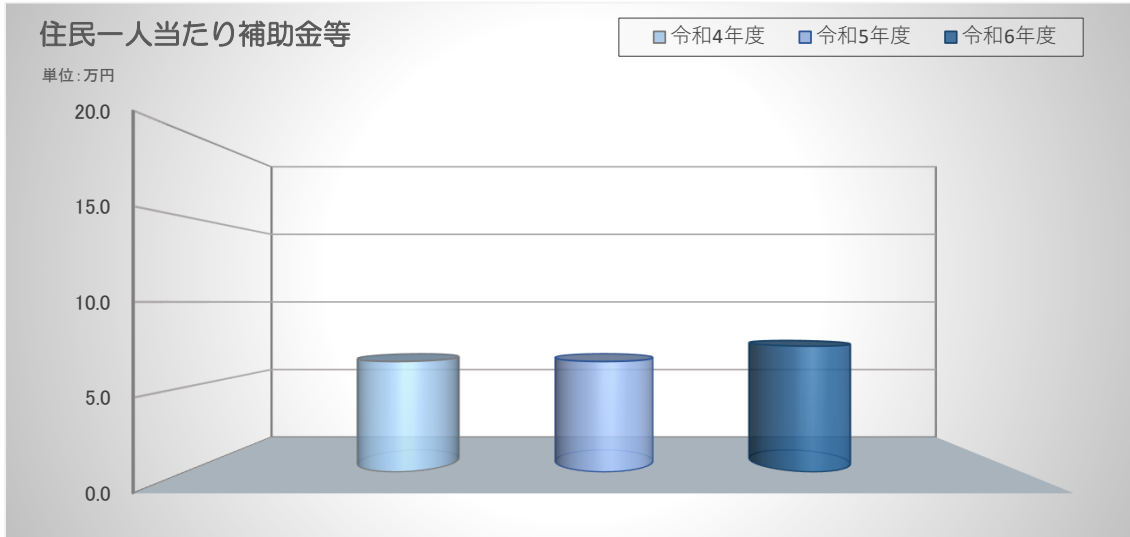
大きいので、面積の大小が大きく関連する指標です。

効率性

住民一人当たり補助金等

行政コスト計算書(PL)に計上される補助金等を人口で割ることで、住民一人当たりの補助金等を求めることができます。

経年比較や類似団体との比較を行うことによって、地方公共団体の行政活動の効率性の測定に役立てることができます。



(単位: 万円)

	令和4年度	傾向	令和5年度	傾向	令和6年度
住民一人当たり補助金等	6.5	→	6.5	↓	7.4

※一般会計等

全国平均値	16
類似団体区分別平均値(Ⅲ-2)	8

$$\text{住民一人当たり補助金等} = \frac{\text{補助金等 (PL)}}{\text{人口}}$$

《指標分析コメント》

住民一人当たり補助金等は、増加になっております。

主な要因として、定額減税一体支援事業費の支出を12.2億円計上したことによりです。

全国平均値及び類似団体区分別平均値よりも低くなっています。

住民一人当たり補助金等についても、人口による格差が大きくでる傾向になります。

また、補助金は団体を経由する費用なので、地方公共団体の裁量に任されているものが多く

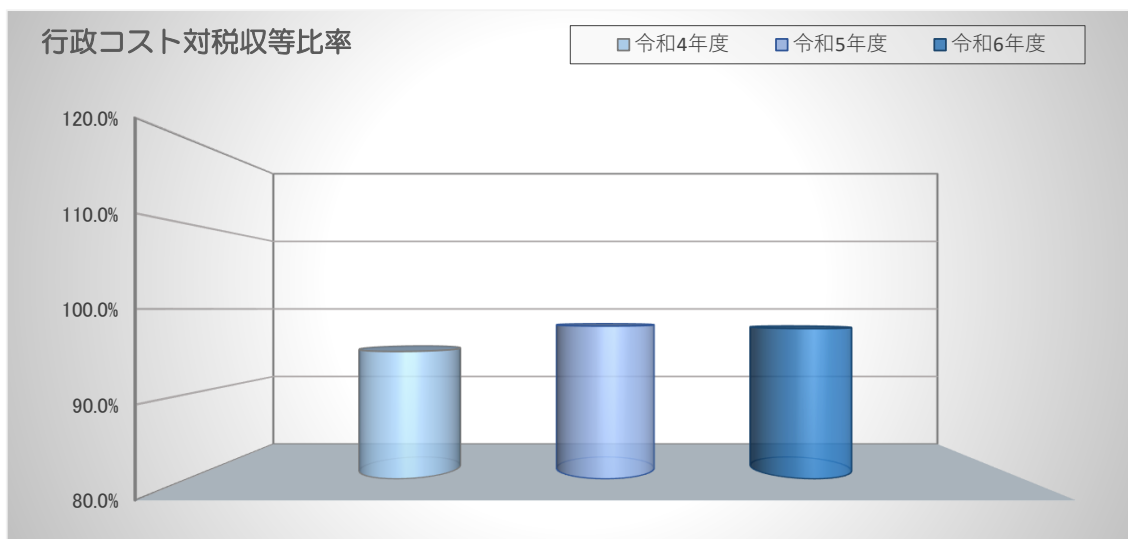
コスト削減に対しては比較的早期に結果を生み出せる可能性があります。

行政コスト対税収等比率

一般財源等のうち、どのくらいの金額が「資産形成以外の行政コスト」に費消されたのかを把握することができます。

この比率が100%に近づくほど資産形成の余裕度は低く、100%を上回ると、過去から蓄積した資産が行政コストに充てるために取り崩されたことを表します。

100%を超えないことが望ましいです。



※一般会計等

	令和4年度	傾向	令和5年度	傾向	令和6年度
行政コスト対税収等比率	95.0%	↓	98.0%	↗	97.7%

全国平均値	100.1%
類似団体区分別平均値（Ⅲ-2）	98.4%

$$\text{行政コスト対税収等比率} = \frac{\text{純経常行政コスト (PL)}}{\text{税収等 (NW) + 国県等補助金 (NW)}} \times 100$$

《指標分析コメント》

行政コスト対税収等比率は、3年連続で100%を下回り、全国平均値及び類似団体区分別平均値も下回っており、健全な状態となっています。

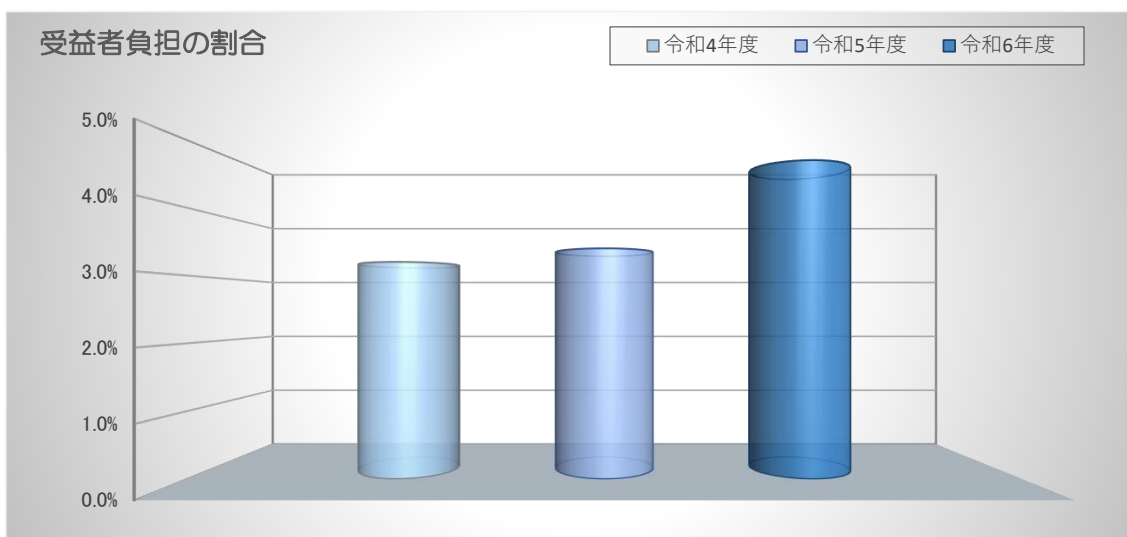
これは、臨時損益を除き純資産変動計算書の本年度差額がプラスとなっていることを示しており、100%を下回ると、現世代の負担によって将来世代も利用可能な資源の蓄積をしていることになります。

本年度差額には、現金支出の伴わない減価償却費や引当金が含まれていることに留意が必要です。

受益者負担の割合

行政コスト計算書(PL)の「経常収益」は、使用料・手数料など行政サービスに係る受益者負担の金額が反映されています。

また、行政コスト計算書(PL)の「経常費用」は、行政サービスの提供の金額を表しています。これらを用いることで、行政サービスに対する受益者負担の割合を算出することができます。数値を経年比較、類似団体比較をすることにより、地方公共団体の受益者負担の特徴を把握することができます。さらにこれを事業別・施設別に算出することで、受益者負担の割合を詳細に分析することも可能となります。



	令和4年度	傾向	令和5年度	傾向	令和6年度
受益者負担の割合	3.2%	↗	3.4%	↑	4.7%

※一般会計等

全国平均値	4.5%
類似団体区分別平均値(Ⅲ-2)	5.3%

$$\text{受益者負担の割合} = \frac{\text{経常収益 (PL)}}{\text{経常費用 (PL)}} \times 100$$

《指標分析コメント》

受益者負担の割合は、増加傾向にあります。

全国平均値及び類似団体区分別平均値よりも低くなっています。

他の指標に比べて、人口別にも地域別に相違が少なく、個別自治体間で比較すると相当な開きがある場合があります。令和6年度においては、長良導水取水施設土地改良施設補償金の受取による経常収益の増加が5.3億円ありました。一方で、定額減税一体支援事業費等支出や社会保障給付費による経常費用の増額もありましたが、経常収益の増減率の方が高い為、受益者負担の割合が上昇しています。